

会派行政視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書

1. 視察概要

会派名	創新会
議員名	佐藤仁一郎、伊勢健一、早坂憂、佐藤弘樹、石田政博
日時	令和7年7月2日(水)15:00~17:00
視察先	北海道別海町
出席者 (説明者)	「一般質問検討会議並びに委員会代表質問」について 別海町議会 議長 西原浩 様、副議長 戸田憲悦 様、議員 小椋哲也 様 議員 市川まりあ 様 別海町議会 議会事務局 事務局長 入倉伸顕 様、主幹 木幡友哉 様 「別海町地域おこし協力隊の活動状況」について 別海町 総合政策部 総合政策部長 松本博史 様、総合政策部 地域創生課 主任 菊地裕樹 様

2. 視察内容

視察項目	「一般質問検討会議並びに委員会代表質問」について 「別海町地域おこし協力隊の活動状況」について
視察内容	◎「一般質問検討会議並びに委員会代表質問」について
【質疑応答】	・一般質問検討会議の設置経緯と運用状況 別添資料 P3、P4 参照。 令和元年 8 月の研修をきっかけにトライアルを実施し、一般質問を行わない議員も参加して議論を開始した。議員が町民から集めたアイデア(課題)をシェアし、議員間討議を行っている。議長が質問の采配を行う上でも事前に落としどころを共有できるため、非常に有効。 ・同会議の成果と課題 P11~17 参照。 一般質問の磨き上げを行う事が狙い。新人議員にとってはありがたい制度である。各議員からの意見を取り入れるかは議員個々の判断に委ねているが、次回以降違う視点で質問が出来るというメリットもある。議員間の共有が無いと質問を行う議員は孤独感もあるが、検討会議を行うことで課題の共有が出来るため、議会の賛同を感じる事も出来る。質問から委員会の調査に結びつくこともある。質問後に振り返りを行う事も意義深く、周りの評価も見える化できる。質問のネタが尽きた、という議員も周りの意見があることでブラッシュアップを行える。一般質問を行う議員の比率も向上した。改善点を指摘するときは

気を遣う。

・委員会代表質問の実施経緯と内容

P18～21 参照。

委員の総意に基づく一般質問という形で行っている。ただし、再質問には課題もある。
(再質問が委員会の総意なのか委員長の独断なのかの線引きが難しい)

委員の総意を守ることが大切であり、振り返りも非常に意義深い(議会からの評価が見える)ものとなっている。

・同代表質問の効果と課題

委員会の総意ということで、議員個人の一般質問よりも重いものとなる。ただし、前段の通り再質問に課題もあるため、補助員をつけることが出来ないか模索している。委員会毎に熱量にバラつきがある事も事実。委員会の中で議論を尽くす必要もある。

・同会議並びに同代表質問の検証や、議会改革における協議

議員の問題意識の共有から委員会の問題意識としていく機会が充実した一方で、委員会と一般質問との機能分担の確保が課題である。政策形成サイクルを確立させるために議会モニターとの意見交換や YouTube 配信を行いながら町民の反応を注視している。

■質疑応答

問 委員長は自分の質問と委員会の質問と 2 回質問を行えるということなのか。

答 行える質問は自分の一般質問の 1 回であるため、大項目で分けており、一つ目で委員会代表質問を行い、2 つ目から個別の質問を行っている。

問 病院の課題に関する委員会総意の質問で、特別委員会では無く委員会の質問としたことの経緯について。

答 病院の課題は難しく、他の市町村では議会からの突き上げがひどいため、医師が病院から引き上げた事例もあると聞く。あくまでも追求では無く問題意識の共有を前提とし、特別委員会は設置せずに委員会代表質問で質した。

問 大崎市議会は人数も多く、新人も多いため、各質問を整理するために検討会議は有効と感じたが、同様のメリットを感じているか。

答 論点整理を議会として行えるのが最大のメリットと感じている。職員から議員になった人材もいるため、想定問答を考えながら議論できるのも有意義な時間となっている。

問 別海町議会に会派はあるのか。

答 会派は無い。そのためフラットに議論できていると思う。

問 委員会代表質問に補助員をつけるという制度は興味深い。今現在どのようなイメージで進めているのか。

答 質問に対する答弁の聞き漏らしをカバーしたり、数字の確認を行ったり、補助の理想はそれぞれあると思う。答弁に対する再質問を委員会の委員で議論するために休憩を取る事が制度上出来るので、その部分を詰めたいと考えている。

問 これまでに印象的だった検討会議での改善事例などを聞きたい。

答 成人年齢が引き下げられ、成人式を行う年齢を行政側が18歳としたが、町民から各議員へ「20歳で行って欲しい」という意見が複数あったため、一般質問検討会議で議論し、提案することで20歳を対象とすることに戻した事例が思い出深い。町政の課題を皆で認識し、改善をすることが出来た好事例だと思う。

問 議会サポーターや議会モニターは有償なのか。

答 現在は有償であるが、現在は公募で多くの応募があり、報酬が無くても担いたいという声も多くあるため、人員を増やしながら無償としていく方向で議論している。

最後副議長より

議会に対する無関心を減らすために議会側が努力する必要がある。町民の生活に直結している課題が多いため、しっかりと発信を行う事も大切である。

◎「別海町地域おこし協力隊の活動状況」について

・別海町地域おこし協力隊の配置状況と活動内容

別添参照。在雇用型で12名、委託型で42名の計54名が配置されている。活動内容は多岐に亘り、町内の各課題解決に向けて積極的に活動して頂いている。

・多人員が活動されている背景と経緯

とにかく国の制度を最大限活用しながら別海町に人を呼ぶことが出来ればと尽力してきた。地域課題はたくさんあるため、その一つ一つを解決するために様々な活動内容を準備している。

・各担当課との連携並びに活動支援状況

元々は各担当課が事業計画を作っていたが、現在は総合政策課が一元化して事業を行っている。地域創生課の事業に関係する隊員がほとんどを占めているが、各課題に対し細分化してミッションを与えている。もちろん生活に関する相談にも寄り添っている。

・地域おこし協力隊への住民理解の取り組みと定住率

多方面からご意見を頂いており、そもそも制度自体がよくわからないという意見が多い。

話題にはなっているものの一体何なんだろうと町民は思っている。その部分が課題であり、協力隊と住民の距離を近づける必要がある。隊員の中にもその役割を率先して担おうとしてくれる人材もおり、公民館などで住民との情報交換や懇談会を行う隊員もいる。定住率については、国の平均までいっていない現実があり、当初はミスマッチや臨時職員のような扱いをしてしまう課もあった。隊員も偏った考えを持った人材もおり、他の自治体で行った事例をそのまま行おうとした事例もあったため、採用の時点でふるいにかけるようになった。採用して間もない隊員がほとんどであり、定住率が出るのはこれからである。

・今後の展開と課題

これだけ隊員が増えて管理できるのか、という話もあるが、管理する必要があるのかとも考える。管理しようとするからこそミスマッチも起きてしまう。マネジメントを行う際には国の地域プロジェクトマネージャーという制度を活用して対応している。課題としては商工会などから隊員の派遣依頼がきているため、認知度が上がると地域間の綱引きが強くなっていると感じる。サポートする職員も足りない。地方としては優位な人材を確保できる素晴らしい制度だと感じている。地域課題を解決するための制度なので、学習塾設置などについても活用できると考えている。

■質疑応答

問 隊員の活動内容が多岐に亘っている。別海町を希望した方は全て受け入れるという姿勢なのか。

答 庁議の中で活動コンセプトを作っている。その中で北海道への移住を楽しむか、仕事を楽しむか、3年間の中でどちらかになれば良いのでは無いかという議論になった。別海町を以前から知っていた人材はほとんどおらず、北海道に移住するという所に魅力を感じて来ていると感じている。恐らくどんな仕事でも変わらずに北海道に魅力を感じて来ているのだろう。

問 地域からのクレーム、隊員同士のトラブル、それに対応するために自治体職員が自ら出向いて相談に乗るという話も少なくないと感じる。実際に経験した苦労話について聞いてみたい。

答 残念ながら想定外のミスマッチなどが起きてしまう。隊員と話し合っただけで雇用から委託に切り替えたりすると、生き生きと仕事してくれるように変わったりする。形態が変わっただけで爆発的に行動が変わる隊員もいる。運用形態を色々用意していると様々な事例に対応できると感じている。

問 癒やしのまちづくりというミッションは何をやっているのか。

答 産後ケアの分野で、隊員がリラクゼーションの知識と経験を活かして活動し、オイルマッサージ等を行っている。民間の宿をお借りし、宿泊型で美味しい料理を食べながら、

お子さんは助産師が隣の部屋で預かり、子育ての疲れを癒やしてもらう取り組みである。

問 委託型で来ている隊員は、ミッション以外に手に職を持っているのか、他に収入を得ているのか。

答 隊員としての活動時間外で他の仕事をしている隊員もいる。副業扱いで整理している。

問 54 人隊員がいる中で、何人が定着する見込みか。

答 全国平均は超えたい。まず 5 年はここに残って頂けるようにサポートしたい。

問 農業、酪農が有名な別海町で、そのミッションが少ない理由は。

答 それぞれの職場の温度感や規模感の違いもある。新規参入しづらい。

問 乳価下落の影響を著しく感じるような場面はあるか。

答 別海町は多くの皆さんに知られていない町である。皆さんの町のスーパーに並んでいるほとんどのチーズは別海町で作られているもの。そういう事も知られていない。地元の農協職員ですら知らない人もいる。商品をただ納めて、その先を知らない課題がある。ふるさと納税に力を入れているのは、その事も知って頂きたいという思いから。様々な政策課題の解決に協力隊制度を活用していきたい。

問 地域おこし協力隊への応募が増えている背景をどの様に捉えているか。

答 職員が勉強し、転職サイトのノウハウを身につけたことが大きい。また国が目標としている 1 万人の隊員へ向けて、待遇が良くなっていることも挙げられる。他の部署も協力し、その部分を協調した見せ方が出来たことも大きいだろう。

問 卒隊後生業を持つことに対するサポートをどの様に考えているか。

答 移住してくれてありがたいという気持ちが前提。その気持ちが隊員にも伝わると定着に繋がると考えている。また、隊員がどんなキャリアを目指しているかを確認し、それぞれに合わせた導き方をできるだけ行いたい。ただ、結果はまだ出ていないので、この気持ちだけしかお答えできずに申し訳ない。

問 地域プロジェクトマネージャーの採用で行政の負担は減ったのか。

答 確かにタスクは減ったが、その分別な仕事が増えたので、あまり実感は無い。

〈別紙にて全説明資料を添付〉

〈別紙にて視察時写真を添付〉

考 察

【所感・課題
・提言等】

一般質問検討会議については、議会の規模感や会派が無いことも良い方向で影響し、行いやすい環境なのだと感じた。質問後の振り返りも次の質問に繋がる良い機会となり、議員の資質向上に寄与しているという話は大変参考になったが、これを大崎市議会で同様に行うには課題も多いと感じた。大崎市議会では各会派がそれぞれ同様の取り組みを行うとより質問の精度も上がり取り組みやすいのでは無いかと考える。

一般質問の機会を利用した委員会代表質問についても、委員会の総意として行う難しさを感じる話だった。1 回目は総意だったとしても、2 回目の質問が委員長の私的な感覚で行うわけにはいかず、それを補うために副委員長を補助員として配置できないかと模索する方向性は理解が出来た。大崎市議会と違い、質問中に正確な数字などの答弁が無い場合即休憩を取り、準備が整い次第再開するというやり方はぜひ取り入れたいと思ったが、時間的な制約をどう乗り越えるかが課題とも感じた。

地域おこし協力隊の活動状況については、まさに驚愕の内容と考え方だった。54 名という採用人数。多岐に亘るミッション。そして、活動は隊員の考え方に任せて一切管理を行わない姿勢。目からうろこの内容であり、考え方を改める必要性を感じた。大崎市では特別交付税で本当に全額入ってくるのかを疑い、採用に二の足を踏んでいるという話も聞かすが、別海町ではその様なことを微塵も考えず、とにかく地域課題解決のために国の制度を最大限活用し、数の力で取り組む意気込みが感じられた。結果は出ていないと話していたが、地域おこし協力隊という移住者に対する感謝の念と敬意が至る所ににじみ出ており、ただただ感心した話だった。

我々は固定観念に囚われ、一定の枠の中でしか物事を見ていないということを改めて強く認識した視察だった。決めつけは可能性を狭め、縛り、咲くはずの花を枯らせてしまう原因となることは明白であり、「他自治体と同様に」「前年度と変わりなく」というやり方は新しいもの、考えは何も生まれないのだ。部下の挑戦を見守る上司の存在、上司の意図をくみ取って自在に考え動く部下、それぞれの相乗効果が生み出している効果は計り知れない。我々議会も、ただ市民の代弁者として活動するだけで無く、第2第3の質問と提言という矢をしっかりと放ち、新しい考え方を切り拓いていかなければならないだろう。

以上

会派行政視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書

1. 視察概要

会派名	創新会
議員名	佐藤仁一郎、伊勢健一、早坂憂、佐藤弘樹、石田政博
日時	令和7年7月3日(木)13:30~15:25
視察先	北海道中標津町 岩谷学園ひがし北海道日本語学校
出席者 (説明者)	学校法人岩谷学園 岩谷学園ひがし北海道日本語学校 校長 飯田雄士 様 学校法人岩谷学園 岩谷学園ひがし北海道日本語学校 副校長 菅野三夫 様

2. 視察内容

視察項目	「岩谷学園ひがし北海道日本語学校の運営体制と生徒履修状況」について
視察内容	
【質疑応答】	<p>・開校経緯と運営体制 岩谷学園理事長と親交のあった中標津青年会議所の本理事長が中心となり、平成30年12月に誘致の会を結成し、令和元年6月に、岩谷学園、誘致の会、中標津町、商工会の4者で連携協定を締結して令和3年に開校。在籍数は、生徒数は定員100名に対して、R3年0名、R4年9名、R5年40名、R6年66名、R7年88名と着実に増加している。 さらに、令和3年12月に専門学校開設について、農業協同組合、中標津建設業協会も加えて連携協定を締結。令和6年3月には、北海道根室振興局、根室教育局と多文化共生や教育、産業、防災等でのデジタル人材育成に関わる包括連携協定を締結し、令和6年4月には、IT専門学校(農業酪農IT、商工業観光IT)を開校した。</p> <p>・留学生の履修内容と日本文化を学ぶ取り組み 別添資料参照</p> <p>・履修内容 岩谷学園ひがし北海道日本語学校の目的は、就労ではなく、進学であり、生徒は、入学段階ですでに、N5、N4レベルの日本語能力を有しており、日本で社会人として働ける人材の育成を目指している。理解度のばらつきをなくし、より密度の濃い学びを目指し、一人一人に適切なアドバイスをすることで進路選択できるようサポートしている。</p> <p>・日本文化を学ぶ取り組み 日本文化体験として、知床太鼓などを学ぶ機会がある。 また、地域のスポーツ団体と連携して、スポーツをする機会ももうけている。</p> <p>・住民理解と連携内容 入学式には、町長、議長、地元選出国會議員(鈴木貴子代議士)、町内各種団体とも連携協定を結んでいるため臨席を賜っている。また、地元警察署の協力を得て、交通安全教室を行い、自転車の乗り方や生活上のルールについて説明をいただいている。中標津町小学校との出前交流を行っているが、管内の各小中学校、幼稚園などからも交流の依頼があるが、授業に支障のないところに対応している。地元のライオンズクラブと共に桜の植樹なども行っている。また、中標津町民生委員の皆様とも交流を行っている。火災を想定した避難訓練や、消化訓練も行っている。 また、日本に来て一人なので、里親の会を作り、町内の皆様と交流を行っている他、岩谷学園ひがし北海道校後援会を組織し、町全体で応援体制をとっている。</p>

	<p>・留学生の生活等への支援 留学生への生活支援として、2025 年度入学生まで、入学準備金として 100,000 円、毎月寮費全額分 30,000 円、生活費として 25,000 円の支援金が支給されている。ソフト面での生活等への支援については、添付資料の住民理解と連携内容を参照。</p> <p>・今後の展開と課題 介護人材の確保に向けて、介護福祉士の国家資格と N1、N2 レベルの日本語能力で日本に永住できるような体制を構築していく予定。具体的には、岩谷学園では、福祉系の専門学校は運営してないので、近隣の専門学校と連携をして、介護人材の確保に取り組んでいく。 また、今後、卒業生が定住できるような環境を整えていきたい。</p> <p>〈別紙にて全説明資料を添付〉 〈別紙にて視察時写真を添付〉</p>
<p>考 察 【所感・課題 ・提言等】</p>	<p>大崎市においても、大崎市立おおさき日本語学校が令和 7 年 4 月に開校した。設立の経緯にあるように、岩谷学園ひがし北海道日本語学校については、地域全体での誘致の盛り上がりを強く感じた。誘致から地域が積極的に関わってきたことが背景にあるので、運営についても協力体制の強さを感じた。しかしながら、初めは、学生を迎えるにあたって戸惑いもあったことが、意見交換の途中であったが、打ち解けてからはお互いに信頼関係が築き上げられてきたとの説明であった。アルバイトなども、最初は受け入れ先がなかなかすぐに見つからず苦労があったが、受け入れ先での、学生の評判を聞いて、徐々に増えていったとのことであった。多文化共生社会ということは、難しい言葉であるが、お互いの人間関係ができれば、打ち解けていくということを感じた。</p> <p>また、説明の中で、100 名の留学生に多額の税金を投入して良いのかという声に対し、アルバイトで毎月 1,000 万円(10 万円×100 名)の労働力創出への効果や、住民税を払っていること、国から交付税措置がなされること等への、住民理解に際しての説明を分かりやすく行っていることについては、経済的側面についても理解を深められ、我々もそのような視点でもきちんと捉えることが大事であると考えている。学校運営と住民理解、そして日頃の学生生活へのサポート体制の認識が深められ大変有意義な視察となった。</p>

以上

会派行政視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書

1. 視察概要

会派名	創新会
議員名	佐藤仁一郎、伊勢建一、早坂憂、佐藤弘樹、石田政博
日時	令和7年7月4日(木)11:00~12:30
視察先	北海道当別町 北欧の風 道の駅とうべつ
出席者 (説明者)	当別町 経済部 観光振興課 課長 佐藤太一郎 様 当別町 経済部 観光振興課 観光振興係 係長 今井拓也 様 当別町議会 副議長 稲村勝俊 様 当別町議会 議会事務局 事務局長 熊谷康弘 様

2. 視察内容

視察項目	「観光振興の取り組みと姉妹都市連携」について 「北欧の風 道の駅とうべつの事業状況と販路拡大」について
視察内容	◎「観光振興の取り組みと姉妹都市連携」について
【質疑応答】	別添資料参照 事前質疑内容の回答詳細も資料参照 ■質疑応答 問 シティプロモーションと誘客に繋がる取り組みの現状はどうか。 答 道の駅のターゲット検証と、本町への誘導策を検討している。(着付体験・歴史体験・開拓体験・農業体験等の企画) また、3年後の北海道医療大学の移転による人口減少対策で、観光振興課を新設した。 問 今後の展開と課題は。 答 町内バスツアーの助成制度を考えており、甲冑体験・神輿体験等を検討中である。また、SNSも活用(ショートムービー)したい。課題では、町内に旅行会社が無いことである。 問 観光振興における姉妹都市との連携策は。 答 東京都で、2市1町合同での「伊達マーケット」(特産品販売)を開催しており、大崎市より貸与頂いて、甲冑の活用も企画している。 問 SNSでの情報発信や若年層向けの取り組みは。 答 HP・インスタ(30代以下)・FB(40代以上)を活用する他、YouTube・チケットツクでのショートムービーを活用したい。なお、各団体それぞれで共同投稿(観光協会主体)を行いたい。 ◎「北欧の風 道の駅とうべつの事業状況と販路拡大」について 別添資料参照 事前質疑内容の回答詳細も資料参照 ■質疑応答 問 運営体制と利用状況はどうか。 答 当別町地域商社「株式会社 Tobe」(社員12名、パート25名)が運営し、2017年の

開業以来 636 万人が来場され 30,9 億円売上、令和 6 年は最高の 116 万人来場。

問 販売状況と販路拡大の取り組みは。

答 販売単価が安く、週末の売上は多いものの売上の平準化が課題である。アンケート結果からターゲットを絞込み、町内への通行車を取込みたい。

問 今後の展開と課題は。

答 道内初のセブンイレブンの出店をPRし、町内への通行車の立ち寄りを促す。店外での販売やビアガーデン、ドッグランを計画している。(滞在時間増)

問 SNS 運用で観光振興課の職員の取材や更新の作業の負担が大きいと思うが、基本業務に支障が出るのでは無いか。今回の視察で先に行った別海町では、国の予算を活用して、地域おこし協力隊員を 54 人採用し、観光など主にフリーミッションで委託契約して活動しているようだが、その様な考えはないか？

答 以前から地域おこし協力隊の採用を提案しているが、本町は地域おこし協力隊にアレルギー反応がある様で、なかなか進まない。後押し有難うございます。

問 ツアーを企画しているとの事だが、主催はどこになっているか。

答 主催は当別町観光協会である。会長は商工会副会長(スマイルポーク)である。

問 観光協会と行政の関わり方は。

答 町が事務局であり、町からの繰出補助金は 40%~50%で、他は会員会費で賄っている。ツアーモデルコースは、あくまでも提案型である。ただし、会員(町内)に旅行会社(資格者)がいないことが課題である。

問 みやぎ大崎観光公社を是非活用、連携してはどうか。また、資格者の地域おこし協力隊を募集してはどうか。

答 現在、大手の JTB、近ツリ、読売、HIS、日本旅行等との企画で、令和 7 年度は 5 本のバスツアーを予定している。先に話したとおり、ひと企画に 30,000 円の補助金をツアー会社に交付している。是非、みやぎ大崎観光公社とも連携したい。

問 ツアーメニューに甲冑作り体験を取り入れてはいかがか。製作には時間が掛かるので、ツアー客よりはとうべつ学園での体験も良いと思うが。

答 ダンボール甲冑にも興味がある、是非検討したい。

問 道の駅とうべつの年間利用率向上のため、イベントを開催してはどうか。道の駅おおさきではマルシェイベントを開催し、テナントの売上に貢献しているが。

答 実はイベントをすると本館の売上が下がる傾向にある。元々の客単価が安く、商品開発が必要と思っている。

問 イベント開催時に、店内テナントを外に出店してはどうか。

答 検討する。滞在時間を作るため、現在ドックランを工事中である。

問 ドックランを作るのであれば、側にテントテラス席でも併設してテイクアウトメニューやジビエを活用したドックフード等も販売するのはどうか。

答 検討したい。

問 係長の発言が無かったので、最後に是非所感を伺いたい。

答 実は大崎市には 2 回行ったことがある。1 度目は役場入庁前だが岩出山を観光した。2 度目は、水害時に応援できて避難誘導に当たった。当別町の特徴としては、札幌と比較して、美味しい料理や生産品が安く食べられる利点もあり、上手にアピールしたい。

	<p>〈別紙にて全説明資料を添付〉 〈別紙にて視察時写真を添付〉</p>
<p>考 察 【所感・課題 ・提言等】</p>	<p>【所感】 3年後の北海道医療大学の移転を見据え、今回説明を受けた観光振興課を新たに立上げ、交流人口確保策に取り組む姿勢に勢いを感じる。現状認識のアンケート調査やターゲットの絞込み、そして改善点の整理と良く検討されていると思う。道の駅やロイズから上手く本町に誘導出来るよう期待する。 また、誘客や町のアピールとして、伊達文化をメインに企画している事に感謝したい。尚更、大崎、宇和島、当別の連携の強化が出来るように議会でも協力していきたい。</p> <p>【課題・提言】 ・職員の業務負担が大きくなったので、早期に地域おこし協力隊を活用すべき。 ・道の駅と観光バスの提携、登録をすべきだと思う。 ・みやぎ大崎観光公社との連携。 ・道の駅への冬場の集客。</p>

以 上